

“まりりんさん”の子育て

生まれたときは驚くほど安産で、0歳のころは手がかからなくて大人しい子でした。人見知りもしなかったのも、知り合いに預けても泣きませんでした。この頃は子育てでつらいと思うことはありませんでしたが、親戚から「この子はちょっと周りと違うんじゃない」と言われたのを覚えています。1歳のとき、他の子が言葉をしゃべりだしても全然しゃべらなかったのも保健師さんに相談したら、支援センターを紹介されました。私としては、「言葉を引き出すための遊びを教えてほしい」くらいの気持ちで相談したので、通うところを紹介されるのは正直不本意でしたが、通っているうちに、外でずっと石を並べていたり、人と手をつなぐのを嫌がる我が子を見て、他の子との違いを感じるようになりました。

1歳半から少人数の保育所に通い始めましたが、小学校進学を見据えて、年少の後半に人数の多い保育園に移りました。この頃、この子に診断がつくなら知りたいと思っていたので、病院を受診し発達障がい診断を受けていました。新しい保育園では障害がある子と無い子で活動をはっきりと分けるところだったので、園での様子を見るのがつらいときがありました。環境を変えた方が良いのではと思うようになり、周囲の反対もありましたが、思い切って年中から別の幼稚園に移りました。新しい園ではクラスの一員として暖かく受け入れてくれましたが、環境がとても重要であることを知るにつれ、小学校入学後の生活が不安になってきました。情報を集めているうちに、今住んでいる地域は、小学校から就労まで時期の支援が乏しいと感じるようになり、子どものために生活の場を移すことを考えるようになりました。

小学校入学までは我が子を人前に出すのが嫌で、“つらい”と感じることが多かったですが、仲間もいたので何とか乗り切ることができましたね。

小学校入学のタイミングで転居することを考え、道内のいろいろな町を調べました。結果、義務教育後の選択肢も多く、支援が手厚い十勝に家族で転居しました。最初の小学校は小規模校で、障害がある子もいない子も常に一緒に過ごせる場所でした。子ども同士のちょっとしたトラブルはありましたが、先生がフォローしてくれたので大きな問題にはなりません。以前は私たちの子育てに否定的だった義父母が運動会を見に来たときに、「いい学校に入ったね」と言われたことが今でも印象に残っています。数年後、夫の仕事の都合で転居することになり、事前に何度も候補先の学校を見学して、芽室町に住むことに決めました。新しい学校は風通しがよく、先生も子どもたちも協力的でした。仲の良い友達ができただけでもうれしかったですね。

中学校に上がると、高校進学のことを考えるようになりました。本人の能力を考えて候補をいくつか絞っていたのですが、本人が希望したのはそことは別の高校でした。中2のときに見学に行き、そのときの印象がとても良かったようです。親も学校の先生もその学校で

は3年間続けられないと思いましたが、周囲がいろいろ言っても、本人の行きたい気持ちは変わりませんでしたね。小学校のときの先生に相談したら「ダメだったら、そのとき考えればいい」と言われたことも後押しとなり、本人の希望する高校に進学することになりました。

小中学校時代の子育ては、それまでと違い一緒に過ごす時間が減ったので、私自身心のゆとりができました。嫌なことは避けて、本人にあった環境を探すことに力を注いでいたので、この頃の私は「(嫌なことからは)逃げるが勝ち」と思って過ごしていました。

親元を離れ高校に入学した当初は、本当に続けているのか不安でしたが、やりたかった部活に入り、目標に向かって頑張る環境ができたことにより、予想以上に順調に過ごすことができました。言葉遣いや礼儀作法、我慢することなどは学校のおかげでずいぶん身に着けることができました。ストレスをため込んだときに調子を崩すのではないかと心配でしたが、祖父母と過ごすことが癒しになることに気づき、時折遊びに行くことでバランスをとっていました。

2年生になり、卒業後の生活を見据えた実習が始まりました。実習中は厳しいことを言われることもありましたが、褒められることもあり、そうした経験の中で自分のやりたい仕事を絞っていくことができました。卒業後は希望していた職場に入ることができ、福祉サービスを利用しながら、ステップアップを目指すことになりました。

高校3年間、「行きたくない」「やめたい」と言ったことは一度もなく、大人の手を借りなくても自分でできることがどんどん増えていき、親の予想を超えて自立が進んでいったのには驚きでした。高校卒業で子育てはひと段落つきましたが、終わったという感覚はなく、私の「子育て」は死ぬまで続くのかもしれませんが、最近、私が気を回して「〇〇はどうしたの?」「××は大丈夫?」と聞くと、「過保護だよ。やめて」と言われてしまいました(笑)。

